

新しい公共支援事業の成果等報告  
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

## 1 事業実施内容

モデル事業名	森林環境教育促進事業	
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠	
事業実施主体名	特定非営利活動法人 大杉谷自然学校	
事業概要	NPO と県が協働することにより森林環境教育が学校教育現場で実施される機会の増大をはかるよう、コーディネーターが学校で促進にあたる体制を確立する。また、森林環境教育を展開することが事業型NPOの資金調達手法となる仕組みを構築し、NPOが積極的に社会的企業として発展する機会の1つとしてとらえ、森林環境教育にNPOが継続的に関わる事業展開を検討する。	
実施期間	平成23年度	-----
	平成24年度	平成24年4月1日から平成25年3月29日まで
支援額 (注釈参照)	平成23年度	-----
	平成24年度	2,499,000円 【内訳】 人件費 1,349,570円 教材費 996円 計画策定費 990,000円 旅費 48,081円 合計 2,388,647円 ※内消費税対象額2,339,570円 消費税 116,979円 総事業費 2,505,626円 自己資金 -6,626円 2,499,000円
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	●協働事業参加組織	
	三重県農林水産部みどり共生推進課 NPO 法人森林の風	
	●会議の実施状況	
	実施月日	会議の議題
	H24.4.11	事業内容の確認・共有化/今後の進め方
	H24.6.7	実施事項の確認/今後の予定
H24.9.25	実施事項の確認/今後の予定	
H25.2.20	実施事項の確認/県教委への聞き取り/25年度についての検討	
事業内容	●事業内容 1. 森林環境教育コーディネーターの配置及び森林学習の企画実施 (1)コーディネーターの配置 コーディネーターとして南部担当の当校の他にNPO 法人森林の風が北部担当となり事業を実施した。両NPOともこれまで学校教育における森林環境教育に携わる実績があったため、活動はスムーズに実施できた。開始時、申込書等共通フォーマットを作成し、質を一定にした。	

(2)森林学習の企画実施のための調査

①電話による調査

昨年度三重県が実施した森林環境教育についてのアンケート調査結果を元に森林学習希望があった65校に電話で聞き取り調査を実施した。さらにコーディネーター側の情報による独自アプローチにより2校、学校側から問合せが3校あり、最終的に70校に電話による調査を実施した。その結果、70校のうち13校が実施希望があることがわかった。この13校のうち新規校は6校であった。

※65校中昨年度実施した学校は12校であったが、うち6校は今年度実施しない方向である。理由は2学年まとめて実施しているため隔年で実施希望・授業数の減少・そもそも課外授業の枠でしていたため対象外となった等である。

(3)森林学習の企画実施のためのコーディネート

①コーディネート

実施希望校に対して、訪問か電話により実施に向けた打合せを実施した。直接訪問6校、電話8校において調整を実施した。このうち9校10回が実施決定となった。

②事業実施

日程	学校	内容
H24.6.29	松阪市立大河内小学校	○大杉谷自然学校 学校林間伐体験・自然観察ゲーム
H24.7.24	松阪市立東黒部小学校	○大杉谷自然学校 森林公園でのネイチャーゲーム
H24.9.8 雨天中止	羽津地区青少年育成協議会	○森林の風 木工(キーホルダー作り)
H24.11.22	鈴鹿市立庄野小学校	○森林の風 竹ポットづくり・ドングリ植え
H24.11.26	伊賀市立花之木小学校※1	○大杉谷自然学校 学校林の樹木調べ
H25.1.29	伊賀市立丸柱小学校※1	○大杉谷自然学校 椎茸の菌打ち
H25.2.1	志摩市立布施田小学校※2	○大杉谷自然学校 大台町の林業体験・木材市場見学
H25.2.7	津市立明小学校	○大杉谷自然学校 学校林の間伐・椎茸の菌打ち
H25.2.8	伊賀市立花之木小学校※1	○大杉谷自然学校 椎茸の菌打ち
H25.2.14	いなべ市立丹生川小学校	○森林の風 竹ポットを使ってドングリ植え 木のカスタネット作り

※1県事業「森のせんせい」活用事業

※2 緑化推進協会「森林環境教育促進事業」助成金活用事業

2. 県による相談窓口設置及び広報活動

(1) 県事業「みえの森っ子まなびや・森のせんせい」との連携

県の森林環境教育普及の一環となっている事業と連携をしながら事業を推進した。電話調査の際、県事業の紹介をしたため、実施決定校のうち2校4回では「森のせんせい」が活用された。

(2) イベントでの広報活動

5月25日NPO法人森林の風が四日市博物館で展示をした際、今回の事業紹介のパネルを展示した。また、10月13日に県主催「みえ森林フェスタ2012」にて森林環境教育の事例紹介を実施した。

(3) 県教委への聞き取り実施

みどり共生推進課に調整いただき、県教委に聞き取り調査をする機会が得られた。学校教育に森林環境教育を取り入れていただくために課題等について意見交換することができた。

	<p>3. 自立した活動についての検討会</p> <p>(1) みえ森と緑の県民税 平成 26 年 4 月から導入予定の森と緑の県民税について情報収集を行った。</p> <p>(2) 補助金・助成金の活用 緑化推進協会や林野庁、企業団体等からの助成金や補助金を一つの活動資金とすることを検討した。平成 24 年度は三重県や緑化推進協会の森林環境教育促進事業の予算を独自に獲得し、コーディネートを依頼してきた学校が 3 校あった。</p> <p>(3) NPO の独自の資金 認定 NPO となり寄付金を集めやすい体制を両 NPO とも目指した。NPO 法人森林の風は仮認定 NPO となった。</p> <p>(4) 県事業との連携 県事業「みえの森っ子まなびや・森のせんせい」を学校が活用する事で、学校の予算的な負担の軽減を図る事ができた。</p>
<p>当初計画（採択時）からの変更点とその理由</p>	<p>●当初（採択時）に計画していた内容から変更したこと</p> <p>① 実施校 北部 4 校、南部 4 校→北部 6 校、南部 3 校 ・希望校調査の結果、北部の学校からの希望が多かった為。</p> <p>② 報告会 1 回、検討会 1 回→報告会 1 回、検討会 4 回 ・検討会は、お互い進捗状況や情報を交換し、次の段階に進める為の必要な話し合いを行うには、当初の計画では回数が足りなかった為。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>●成果と課題</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>*NPOがコーディネーターとなり、学校での森林環境教育を促進する体制の構築 →NPO が積極的に促進役（事前の綿密な打ち合わせと、NPO のノウハウや経験を活かしたプログラムづくりなど）として活動することで、森林環境教育プログラムを実施する学校が増加した。 →申込書等共通フォーマットを作成した。</p> <p>*この仕組みが NPO の事業資金源とできるための手法も検討。森林環境税や他の森林環境教育関連事業費との連携による資金調達の仕組みを進めることができた。</p> <p>【成果についての説明】</p> <p>1. コーディネーターの配置 森林環境教育コーディネーターの配置についてはスムーズに実施できた。</p> <p>2. 順調な企画実施 実施希望校 9 校 10 回に対し、学校との綿密なやり取りを経て、企画を提示し、コーディネート、実施に至った。</p> <p>3. 実施プログラムの満足度 実施後のアンケートの結果、授業の目的に合った良い授業ができたとの感想をいただいた。また、教員では出来ない内容のものが多く、森林環境教育で外部講師を活用する事の意義を感じたという意見もあった。</p> <p>4. 授業の恒例化と定着 平成 19 年度～23 年度まで県で実施していた「森林環境教育コーディネート事業」で実施した学校が継続して森林環境教育に取り組む例があった。継続校に関しては独自予算を確保した学校もあり、森林環境教育を学年の恒例の授業と位置付けていた。新規校に関しても、実施後に継続して実施したいとの声も聞かれ、関心の高さが伺われた。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>1. 学校側に営業しても実施に応じていただける率は高くなく、何度も足を運ぶ必要があった。</p> <p>2. 一つの学校で授業を受け持つ個人や団体はあっても、広く展開させる動機がある組織は少なかった。</p> <p>3. 県の人材「森のせんせい」等の既存事業の連携・活用が少なかった。</p> <p>4. 「みえ森と緑の県民税」の導入は決定したが、森林環境教育に使われるかどうかは市町行政による</p> <p>5. 授業の内容は学年や学習内容に合わせて、実施する必要があり、コーディネーターがもっと学習内容を把握しなければならない。</p>

	<p>6. コーディネーターとしての新たな事業型 NPO の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなコーディネーターの発掘としては、南部での不足を補えるよう3つの NPO と林業事業体と面接した。しかし、いずれも独自の活動の中で学校と結びついて授業を行っており、さらに広域でコーディネーターとして動くのは本業等もあり、難しいとの回答だった。</li> <li>・事業型 NPO としては北部南部ともに森林環境教育分野で活動している団体は少なく、現段階では広域的な活動をする NPO を獲得するのは難しい。しかし、今後森と緑の県民税の導入等で、関心が高まれば、活動の幅を広げる団体も出てくる可能性がある。</li> </ul> <p>7. 資金調達</p> <p>平成 25 年度に関しては、県の「みえの森っこ学びや事業」や、NPO が独自に獲得を目指している補助金、寄付金等を活動資金に充てる予定である。しかし、補助金に関しては活動場所の制限もあり、24 年度に実施した学校から希望があっても、活用できない可能性がある。助成金や補助金等、学校独自に資金を確保してもらう必要がある。</p>
<p>平成 25 年度 以降の 見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施校への支援を行うとともに、コーディネーターとなり得る NPO を増やすことで、新規実施校を獲得する。</li> <li>・ 各 NPO 自身も「森のせんせい」として森林環境教育プログラムを実施する中で、学校教育の実情に合ったプログラム開発を進め、モデルとなる事例を増加させる。</li> <li>・ NPO 法人森林の風、県との意見交換会を継続して実施するとともに、広報活動を継続実施し、森林環境教育の重要性を訴える。</li> <li>・ 25 年度の資金に関しては、県の「みえの森っこ学びや事業」や、NPO が独自に獲得を目指している補助金、寄付金等を活動資金に充てる。</li> <li>・ 県では学校で活用できる森林環境教育の資料制作を考えており、資料作りの検討会メンバーに実践者として NPO が関わる予定である。</li> </ul>

2 成果の達成状況等

平成 24 年度に 達成しようと する成果	① 学校における森林環境教育の実施がコーディネーターにより促進されていること ① 森林環境教育に関わる事業型 NPO が複数あること		
具体的な指標 の達成状況等	項目	当初目標設定	平成 25 年 3 月末の達成状況
	① 学校数	目標値(8)/ 現状(12)	9
	② 事業型 NPO 数	目標値(2)/ 現状(2)	2
	成果指標の達成状況		
	① 学校数については 9 校となり目標を達成した。達成校の中には、来年度継続のために、独自に予算を獲得する方法を紹介し、実際に取得してもらった例もあった。来年度の継続に期待が持てる内容である。 ② 事業型 NPO 数は目標を達成した。しかし、今後コーディネーターを増やすことは難しいと実感した。独自に活動している団体はあるが、さらに学校に働きかけを行い、実施数を伸ばせる積極性のある団体はあまりない。		
達成に向けて行った工夫 または 未達成の原因及び講じた改善策			
今後コーディネーターを増やすことは難しいと実感した。しかし、今後森林環境税が導入されることにより、森林環境教育の重要性や予算等が明白になることにより、取り組むことに積極的な団体が出てくる可能性はある。そのため、今回実施したコーディネーターの役割を積極的に広報発信するべきであると考え、展示等で広報を行った。			
現状の	評価ランク		
自己評価	<input type="checkbox"/> S:特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A:優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B:一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C:限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D:成果が得られなかった (該当する評価にチェックを付けてください)		